

## 平成 30 年度第 1 回白滝地域まちづくり会議録

- 日 時 平成 30 年 10 月 24 日（水）18 時 30 分～20 時 30 分
- 場 所 白滝国際交流センター 研修室 4
- 出 席 矢木会長、大久保副会長、岩城委員、江面委員、中村委員、山崎委員
- 欠 席 内河委員、的場委員、今野委員、古寺委員
- 町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹、白滝総合支所 村上支所長、同地域住民課 吉岡主幹

### ■会議内容

#### 1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長、欠席者について報告。

#### 2 会長あいさつ

(矢木会長) 地域のことを思うきたんのない意見を出してほしい。前回出た白滝駅の待合室の展示について、観光協会で来年度の予算に上げてもらうよう出している。小さな事でも意見を出して、行政でそれを拾ってもらわないと地域は良くなっていかない。自分より若い人が地域を担ってほしい。任期は今年度限りだが、次期も声がかかったら参加してほしい。

#### 3 平成 30 年度遠軽地域まちづくり会議の進め方について

#### 4 平成 29 年度まちづくり会議の振り返り

#### 5 平成 29 年度まちづくり会議の提言に係る町の考え方

資料 1、資料 2-1、資料 2-2、資料 3 により一括して中原主幹から説明。

矢木会長が会議の進め方について、資料のとおりで可と確認。会議の振り返りについても、内容確認。

(矢木会長) ごみ収集についてあったが、役場の方でも変えようと動いているところ。

(江面委員) 会議録 14 ページの発言「10 年以上白滝で農業をやっていきたい」は、「20 年以上」の誤り。

(矢木会長) トレーラーハウスを使って白滝でお店を出してもいいという話ある。しかし、出資など地域の皆が支えるという意識を持たないと成り立たない。皆で話し合ってそういうことが出てきたら進めてもいい。そのうち、この地域の人口は 500 人くらいになる。その中で皆が団結して「欲しい」となれば、動いてもいい。どうしても車の便利さでどこかに行って買ってくるとなる。なかなかうまく行かない。

(大久保委員) 6 百何十人で商店を 1 軒維持するのは難しい。JR の石北線の対策でお祭りに来てくれたらとかイベントがあったが、成果はどうだったのか。

(中原主幹) スタンプラリーは、遠軽駅スタートで町内の 5 施設に行き 2 地域以上行くと JR タワーホテル宿泊付の札幌～遠軽往復チケットという豪華な賞品を用意したが、応募は一桁だった。確か応募は 7 件、うち 4 件は同一人だった。

(矢木会長) アンジくんまつりのときも JR で来たら千円分のチケットがもらえるとなっていたが、2人しかいなかった。

(大久保副会長) 遠軽高校の補助とも関連するが、だったら遠軽高校に通う子を一人増やした方が良くないか。なるべく遠軽高校に行ってもらうような働きかけをする。親の負担とかではなく、なるべく町内の人は遠軽高校に行ってくださいと働きかけをすることがあっていい。JR も日常使う人を増やさないとだめ。数人来てもしようがない。やることに意義があるのかもしれないが、実際には遠軽高校に汽車で通う子が増えた方が効果がある。よその子呼んでくるよりも、町内の子を出さないようにする。もちろん、どこの学校に行くかは個人の自由だが。

(矢木会長) 今回、渡辺組で(高校生向けの)下宿を作ったが、誰もやらないから仕方なくとのことだった。そういうのは(高校に入ってもらうための)努力だと思う。汽車に乗るかは別にして子供たちに優先してケアをしてあげるのが行政。

(大久保副会長) 白滝、丸瀬布、生田原の子どもたちは、高校から町外に出してしまうと遠軽がふるさどにならない。帰って来る確率はますます減ることにつながると思うし、地域を守っていこうという子どもが1人でも多く育ててほしいと思う。そのためにも、なるべく遠軽高校に行ってもらう子を増やす働きかけは町としてあっていいのではないか。

(矢木会長) それはそのとおりだと思う。うちの子どもも「遠軽に帰って来たい」と言っている。友達がいるから。そういう思いはある。

(大久保副会長) (友達が)白滝にいても、遠軽にはいない。遠高に行かないと。それは大きい。

(江面委員) JR のことは、利用者の延べ人数というのは大事なのか。

(佐藤課長) そう。

(大久保副会長) 延べだとしたら、高校生なら年350人、往復で700人になる。

(江面委員) だとしたら、イベントで数人よりも週5回ぐらい使う人が1人いる方がずっと延べ人数が上がる。役場の職員の通勤者がJRで通うというのはどうか。

(山崎委員) 利便性が大きくて、昔はもっと便数があった。遠高に行ったらいいとか町に押し付けるのではなく、親からも遠高にどういう魅力があるのかを伝えないと。利便性とか言っても子どもたちは遠高に行く気にならないと思う。白滝の子どもは少人数だから人馴れしていない。大勢のところに行くことを怖がっている。だから、ジュニアバレーとかで他の地域に友達ができたという段階で遠軽へ行くとか。JR に関しては確かにそうだが、親もどれだけ魅力があるということを書いていかないと、子どもたちの志向で上に行けるチャンスがあるとなると、遠高でもそれはできるよと説得するとかしないと。お金だけの問題ではないから町としては部活動の魅力を作ろうとかして町外からの生徒を呼び込んで、いいチームを作るという風にやっている。

(江面委員) 高校生の話が出ているが、役場の職員や企業で遠軽に通っている人が利用す

るのは現実的なのか。残業したら帰って来れないような。

(中原主幹) 自分も考えたが、時間が合わない。

(江面委員) 観光で利用してもらうのももちろん重要だが、住んでいて日常使いしてもらうアイデアはないかなと思う。

(佐藤課長) 役場では出張には必ず JR を使うようにしている。今後、企業に対しても出張とかそういうものはなるべく JR を使ってもらおうよう働きかけは必要だと思う。

(大久保副会長) 本数は減ったが、必ず座れる。横須賀の子どもは満員電車の中、6時台に乗って出かける。部活やってきて帰ってきたら絶対座れない。遠高の子は行きも帰りも確実に座れる。駅でテーブルも置いてもらったので、すき間時間に勉強もできるし、通学時間はロスではない。自分がきっちり管理できる子だったら、遠軽でも勉強できるし、大学だって学校の勉強以上にどれだけやれるかなので、結果、同じ大学に行けると思う。皆には言えないが、特別な場合を除けば遠高で十分だと思う。

(山崎委員) 企業に JR を使ってもらうために、札幌とか旭川の出張の時には紋別空港でやっているような助成金をやれば違うのではないかな。

(佐藤課長) そういうアイデアも内部ではある。JR と地元が一緒になって経費節減も含めて来年、再来年の集中改革期間ということで、年内には計画を作らなくてはならない。山崎委員のアイデアも含めて石北本線の計画を作り上げていきたい。

(矢木会長) こういう意見があったよと伝えていただくということで。

(大久保副会長) 町とは関係ないと思うが、国道の草刈りを今年はしていないのではないかな。鹿も草が伸びていると見づらい。

(村上支所長) 町政懇談会でも出ていた。それを言いに行くと、年1回しか今年はできないということだった。

(大久保副会長) 歩道も役目を果していない。町から意見を言ってもらいたい。見づらく危険。

(中原主幹) 遠軽高校の助成に関しては、配布した資料のとおり町議会の一般質問でも出ている。町外から遠高に来てもらって、実際に吹奏楽とか野球とかラグビーなど部活動の活性化につながっている。今やっている助成金はそういうことを主眼に実施しているもの。

(中村委員) 今、どのくらい遠高に町外から来ているか。

(佐藤課長) だいたい50人くらい。

(大久保副会長) でも、助成がなくても来ているのではないかな。

(佐藤課長) 判断のひとつにはなっていると思う。

(中村委員) 遠軽町の中学生が地方に出ていく人数はわかっているのか。やはり50人くらいか。

(佐藤課長) だいたいそれくらい。

(大久保副会長) 遠軽から北見北斗に行く子は、やはり遠高じゃダメということか。わざ

わざと汽車通して北見行くのがわからない。

(山崎委員) それは親の考え方。

(矢木会長) 遠高、遠高と言っているが、町の高校ではない。

(大久保副会長) 町営ではないのに、良くやってくれているとは思う。

(矢木会長) 町長だから、ここまでやってくれていると思う。日本ジオパークにも40万円出している。普通、行政でそういうところに40万円出してくれない。周りからそれで良くなるのですかと突つかれる。人口問題にしても努力していると思う。

(大久保副会長) 4クラスになると先生の数が減るから何とか5クラスを維持したいということだと思う。

(佐藤課長) そのために町外からということ。

(矢木会長) 町長は医療問題も学校問題も全部、ここらへんでは中心地と思っている。農家の人は言いづらいと思うが、側溝の整備。草を刈って、通り雨が来たときにオーバーフローをしないように。事態が起きる前にやってあげたほうがいい。

(岩城委員) 確かに台風が来たとき土地に面した小川が氾濫して毎回畑がえぐられている。言っても大変そうだから自分でちょこちょこ直したりしている。

(矢木会長) 1年に1回でも砂利をさらってあげるとか、きちんとケアしてあげないと崩れてひどくなる場所がある。本来、そういうことを行って聞いてあげる行政じゃないと。

(岩城委員) 町道の脇の枝が張って、枝に当たるようなところがある。

(矢木会長) 結局はこの地域は農家をきちんと生かさないと成り立たない。そこを根本的に考えてやらないと。あと、最近、解体を頼まれるが、そういうといころに補助できるようなことをしてやらないと。多少はお金を出して壊せということを考えてほしい。

(佐藤課長) 空き家対策については、ようやく住民生活課が担当するということが決まった。そういった声を聞きながら対策をしていくことになる。

(江面委員) 加工食品センターの利用状況はどうか。良く利用しているが、他に利用している人をあまり見ないので、なくなったら困ると感じている。

(村上支所長) 陶芸などで結構来ている。

(江面委員) 話によると他の地域にはこうした施設はないと聞いた。お菓子作りで販売許可も取れるということなので、宣伝したら遠軽とかからも来てもらえるのでは。

(中原主幹) 商品を作れるのであれば、それで儲けてもらってとなると施設の価値は高まると思う。

(山崎委員) あそこでレストランなんかやったらいいのでは。

(矢木会長) 他に意見があれば。全体会議もあるのでそちらで言ってもらってもいい。皆さん若いので地域のことを考えて意見を言ってほしい。

(岩城委員) テレビ組合の線に町の光のケーブルが張っている。切ったら高額なお金がかかるらしいが、気になるところがある。どこに言ったらいいのか。

(矢木会長) テレビ組合かも知れないので、今度見に行く。垂れ下がったところは言えば直してくれる。

6 次期まちづくり会議への申し送り事項について  
事務局にて今日の会議の内容を基にまとめる。

7 その他  
全体会議では、江面委員が発表する。

8 閉会  
佐藤企画課長  
20：30 終了